

# 野菜

**実況**…(27年11月20日現在)

## 1 施設野菜

果菜類

### (1) トマト

福井地区は11月上旬で終了した。坂井地区では6～7段果房を収穫中である。若狭地区では8月下旬定植が11月上旬から収穫開始となっており2段果房を収穫中である。

灰色かび病が中～多発、葉かび病が少発、コナジラミ類が少～中発である。

### (2) ミディトマト

県内の抑制裁培は11月上～中旬でほぼ終了した。若狭地区の促成長期どりでは、11～13段果房が開花中で8～10段果房を収穫中である。10月末から暖房開始となっており肥大も良好である。

うどんこ病、葉かび病が一部多発、トマトサビダニ、コナジラミ類、ハモグリバエ類が少発である。

### (3) キュウリ

南越地区の8月定植が収穫終盤となっている。

### (4) イチゴ(高設)

南越、坂井地区は11月中旬から一部収穫始期となっている。

うどんこ病が少発、炭そ病が局少発、ハダニ類が少発である。

葉根菜類

### (1) 軟弱野菜

福井地区のハウレンソウは、10月下旬播種を約35日で収穫中である。三里浜砂丘地のコカブは、10月下旬以降の高温の影響で生育および肥大が前進化しており、出荷が早まっている。

### (2) ネギ

坂井北部丘陵地は、地上部草丈60～70cm、葉鞘径が20～30mmとなっており、12月中旬頃から収穫開始の予定である。アザミウマ類が一部中発である。

## 2 露地野菜

果菜類

### (1) ピーマン

丹生地区、福井市清水地区は11月末まで収穫の予定である。

### (2) ナス

奥越地区は、11月13日で終了した(昨年は11月7日)。

### (3) 一寸ソラマメ

坂井地区は、10月20日～11月7日にかけて定植され、生育の早いところでは本葉5～

6枚となっている。

## 葉菜類

### (1) ネギ

県内の水田平坦部は、4月下旬から5月上旬定植が現在収穫中となっており、順次収穫されている。5月下旬～6月上旬定植が地上部草丈70～100cm、葉鞘径が19～28mmとなっており11月下旬から順次収穫開始の予定である。奥越地区では収穫終盤となっており、12月11日頃に集荷終了予定となっている。越冬春どりは、奥越地区で地上部草丈70～75cm、葉鞘径が17～18mmで昨年並みの生育になっている。福井地区では、生育の早いもので地上部草丈65～70cm、葉鞘径が18mmになっている。

葉枯病、黒斑病、さび病が微～一部多発、ハモグリバエ、アザミウマが少発である。

### (2) ブロッコリー

県内では、8月下旬から9月上旬頃定植したものが、11月上旬頃から継続収穫中となっている。9月中旬以降に定植したものが12月上旬から順次収穫開始の予定である。

黒腐病が微発、アオムシが少発である。

### (3) キャベツ

坂井北部丘陵地は、継続収穫中となっている。県内の水田では7月末から8月上旬定植の早生、中生品種がほぼ終了し、8月定植の晩生が収穫開始となっている。春どり栽培では、10月下旬から順次定植が行われおり、生育の早いものでは本葉8枚となっている。

ヨトウムシ類が微発 黒腐病が少～中発、菌核病が少発、アオムシが少発である。

### (4) 勝山水菜

大きいもので葉数8～10枚、葉長50～60cmとなっており生育は良好である。

黒斑細菌病、黒斑病、白斑病、カブラハバチが少発である。

## 根茎菜類

### (1) ダイコン

三里浜砂丘地、坂井北部丘陵地ともに11月下旬で収穫終了の見込み。

コナガが微発、キスジノミハムシが少発である。

### (2) サトイモ

奥越地区は、株の掘り上げも終盤となっている。出荷量は3L、2Lが少なくやや小ぶりだが、昨年並みの出荷状況となっている。

### (3) カンショ

あわら市は、11月10日頃に収穫終了した。イモの肥大は良く糖度も良好である。

### (4) ニンジン

坂井北部丘陵地は、継続収穫中で収量品質とも良好で2L～L中心の出荷となっている。三里浜砂丘地では、11月中旬から収穫開始となっている。

黒葉枯病が局中発、キアゲハ、ヨトウムシ類が少発である。

### (5) タマネギ

永平寺町は、10月25日から順次定植が行われ11月16日に終了した。草丈21cm、葉

数2～3枚となっており平年より生育は早くなっている。

坂井地区の水田圃場では、草丈15cm、葉数2.5～3枚となっている。

(6) ニンニク

永平寺町では、草丈33cm、葉数4.1枚で平年より生育は早くなっている。

(7) ラッキョウ

平年並みの生育となっている。

(8) ショウガ

福井地区は、11月16日で青果用が終了した。17日からは加工用、親生姜の荷受けが始まっている。

## 対策

施設栽培では、降雪に対する対応の遅れが原因となり大きな被害が発生することもあるので、早めに雪害防止対策を講じておく。また、施設内の保温、採光に努め、生育・収穫の遅延や低温障害等の発生を防止する。なお、天候の変化に留意しながら内張りやトンネル等の開閉が遅くならないよう適切な管理を行う。越冬野菜は圃場の排水対策を行い、植付野菜の保護対策を徹底して越冬率を高める。

### 1 施設野菜

(1) イチゴ

最高気温28℃、最低気温8℃を目安に温度管理を行う。また、うどんこ病やハダニ類の防除を徹底する（ミツバチや天敵への影響に注意する）。

(2) 軟弱野菜

生育が遅延しないように保温管理を行う。また、生育後半はかん水を控え、葉色が濃く、厚みのある葉に仕上げる。

ハウレンソウは、べと病抵抗性品種を利用するとともに、ハウス内が過湿になるのを避ける。コカブの根部肥大には日照の確保が重要であるので、間引きが遅れないようにする。

(3) 果菜類の育苗

ア 育苗床

育苗床は、一般に電熱温床が利用されるが、温度確保のため保温性が高く、温度ムラの少ない構造とする。なお、播種床は高温を必要とするので、電熱線を密（120W/m<sup>2</sup>）に設置する。また、鉢間隔が不十分な場合には日当たりが悪くなって苗質が低下しやすいので、苗床面積を十分に確保しておく。

イ 床土・資材準備

床土は、病気や害虫、雑草発生の無い土に堆肥や肥料を混合して、保水性、排水性が良く、肥効の安定したものを使用する。床土消毒は、薬剤消毒や蒸気消毒等を行うが、いずれも堆肥を混合する前に用土のみを消毒する。なお、薬剤消毒では低温でガス化が弱いので消毒期間を十分にとり、薬害を発生させないように十分にガス抜きを行う。トレイやポット等の育苗資材についても清潔なものを準備する。

## ウ 育苗管理

### (7) 温度管理

多くの果菜類の発芽温度は28～30℃程度であり、発芽までは温度不足にならないよう播種床は別に設置する。発芽後は、低温障害に注意しながら苗の生育に合わせて徐々に温度を下げる。

### (イ) 日照確保

苗の徒長を防ぐため、光透過率が高い新しい資材を用いる。また天気の良い日は育苗ハウスのカーテンやトンネルを開放してできるだけ日照を確保する。

### (ウ) かん水

多かん水は苗を徒長させやすいので、夕方には床土の表面が乾く程度にかん水を行う。なお、床土にモミガラを混入した場合は、保水性が劣ることからかん水回数が多くなって苗を徒長させたり、乾燥によって苗を萎れさせたりしやすいのでかん水管理に注意する。

### (エ) 病虫害防除

トマト黄化葉巻病はタバココナジラミが媒介するウイルス病で、育苗期に罹病すると大きな被害につながるため、タバココナジラミの定期的なローテーション防除に努める。また、ハウス内の除草など物理的な防除に努める。

その他、うどんこ病等の病虫害防除を徹底し健全な苗の生産に努める。

## 2 露地野菜

### (1) 秋冬野菜の圃場衛生

キャベツ、ハクサイ、ダイコン等の収穫を終了した圃場は、収穫残さを圃場外に持ち出し、翌年の病虫害の原因にならないようにする。

### (2) 越冬野菜の管理

#### ア 一寸ソラマメ

12月上旬までに不織布等でトンネル被覆を行うが、被覆の前に赤色斑点病の対策として、薬剤防除を行う。また、排水溝を整備して湿害を防ぐ。

#### イ キャベツ、ネギ、タマネギ、ニンニク、ラッキョウ等

排水不良による湿害や病害を防止するため、排水対策を徹底する。

## 3 ハウスの雪害防止

冬期間利用しないハウスは、栽培終了後、できるだけ早く被覆資材を除去する。

冬期間利用するハウスは、降雪前に雪害防止対策を十分整えておき、大雪警報・注意情報等が発令された場合には直ちに対応し被害防止に努める。

### (1) ハウスの補強

積雪によるハウス倒壊を防止するため、丸太や



竹等をハウス内に持ちこみ準備しておき、降雪が予想される場合は、3～4 m間隔で支柱を立てハウスを補強する。また、積雪荷重により肩部が左右に広がると倒壊しやすくなるので、ワイヤー等で引き付けておく。ワイヤー間隔が約6 m以上になると、ワイヤー間中央部ではその効果がほとんどなくなるので、支柱と同等の間隔で、支柱の間に張ることが望ましい。

### (2) 屋根雪の滑落促進

屋根雪はハウス内温度を4℃以上にすると、ほとんどの場合滑落する。

加温機やストーブによる加温を行う。また、内張りカーテンがある場合は、カーテンを開放し天井部に暖かい空気が行き渡るようにする。

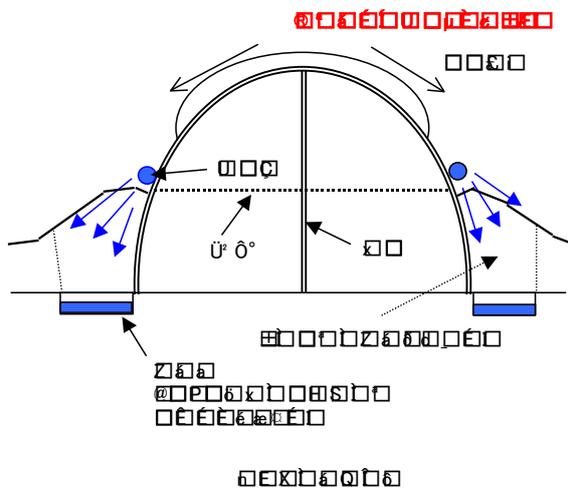
滑落しない場合は、手作業で強制的に滑落させ、天井に雪を乗せたままにしない。

特に、ビニルハウス等では、積雪による被覆資材の弛みが直管パイプに引っかかって屋根雪の滑落を阻害するので、積雪が多くないうちに人力で除雪しておく。特に、天窗は積雪しやすいので注意する。

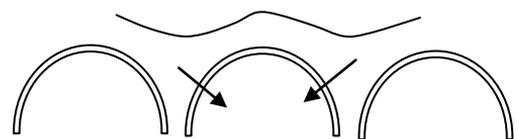
### (3) ハウス回りの除雪

ハウス側壁に滑落した雪が積もった場合は、早期の除雪と散水による融雪を行う。

ハウスの融雪はハウス側壁部に堆積した雪に散水して行う。なお、屋根部まで積雪してから除雪する場合は、ハウス両側を均等に除雪するようにし、片荷重によるハウスの倒壊を防ぐ。



ハウスの隣接間隔が狭い場合は、1棟おきに休作して被覆材を除去し、雪の捨て場を確保する



除雪機を用いる場合は、ハウス周囲を整理して除雪機械の通路を確保しておく。

なお、効率的な除雪のためには、いずれも積雪が多くなる前から稼動することが重要である。



(4) 被覆資材を除去してあるパイプハウス

被覆資材を除去してあるパイプハウスでは、パイプ交点等に積もった雪が着雪し屋根一面に積雪するので、時々人力で雪を落としておく。また、ハウス肩部や腰部のパイプ等が積雪に埋没したままにしておくと、沈降圧によって変形、破損等の原因になるので、早めに掘り出しておく。



ハウスを覆う位の積雪  
があった場合、肩の部  
分から除雪を開始する